

令和8年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会議事録

○ 日 時 令和8年8月18日（火） 午後6時30分～午後8時00分

○ 場 所 いわき市医療センター 1階 きょうりつ講堂

○ 出席者 1 委員（出席：9名）

赤津 雅美、飯塚 修一、大澤 昌代、加藤 尚子、齊藤 道也、坂元 和子、
新家 利一、高萩 周作、原口 英明

※五十音順・敬称略

2 事務局

新谷病院事業管理者

杉院長

関根副院長兼看護部長

緒方事務局長

吉津次長

・経営企画課

鈴木課長、佐藤統括主幹兼課長補佐、
横山課長補佐兼企画広報係長、久野主事

・総務課

鈴木課長

・医事課

中根課長

・施設管理課

佐々木課長

・情報システム管理室

藤本室長

○ 配布資料 ・（資料1）いわき市医療センター病院経営評価委員会設置要綱

・（資料2）「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」評価報告書案（令和7
年度分）

・（資料3）診療報酬改定2026への対応と今後の方向性について

1 開会

事務局から、令和 8 年度第 1 回いわき市医療センター病院経営評価委員会の開会が宣言され、病院事業管理者が挨拶した。

2 委員長及び副院長の選出

委員の互選により、委員長及び副院長を選出した。

[委員長] 加藤 尚子 委員

[副委員長] 高萩 周作 委員

3 議事

(1) 協議事項

①～③ 委員会の運営について

事務局から、会議の公開、議事録の作成方法及び資料等の公表について説明した。

会議は原則公開とし、議事録は要点記録方式で作成した上で公表することについて、異議無く了承された。

- ④ 「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」評価報告書（令和 7 年度分）について
事務局から、資料 2 「『いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）』評価報告書案（令和 7 年度分）」に基づき、説明した。

■ 評価報告書 基本方針Ⅰについて

[評価] 救急車の受入、悪性腫瘍手術など高度急性期医療の提供のほか、地域医療連携に係る取組みを進め、当センターが地域の中核病院として求められる役割を果たしていることなどを踏まえ、総合評価を「A」とした。

[委員からの質疑や意見等]

(委員)

がん診療の集約化について、その余地があるという考えか。また、がん診療連携拠点病院に指定されていることによる経営上の影響について伺う。

(事務局)

がん診療の集約化・均てん化は、国も方向性を示しており、今後の地域医療構想会議等の場で議論になると考えている。

また、がん診療連携拠点病院に指定されることにより、対象患者について、入院初日に 500 点算定できる加算が取得できている。

■ 評価報告書 基本方針Ⅱについて

[評価] 常勤医師数の増加、臨床研修医フルマッチという結果から、医療スタッフの確保は十分にできたと評価し、総合評価を「A」とした。

今後は、育成にも注力し、一人ひとりの生産性向上に向けた取組みも推進していただきたい。

[委員からの質疑や意見等]

(委員)

病院事務職員の育成について、具体的にどのような取組みを考えているのか伺う。

(事務局)

専門分野の知識を持つスペシャリストとしての育成に加え、経営全体を俯瞰的に見て、業務改善、経営戦略が実践できる職員が必要と考えており、複数部署でのジョブローテーションを通じて、職員の総合力を高める方針である。

(委員)

職員の確保について、現在の職員数は、どのように評価をしているか。

(事務局)

現在は、採用計画に対して、おおむね充足しており、職員数は適正という評価をしているものの、今後の医療提供体制や医療需要を考慮して、引き続き検討していく。

■ 評価報告書 基本方針Ⅲについて

【評価】 院内感染対策研修会の実施やDMAT訓練への参加など、中核病院として非常時に備えた準備を実践できていることを踏まえ、総合評価を「A」とした。

【委員からの質疑や意見等】

(委員)

備蓄食料について、当センターでの確保のほか、社会福祉協議会に寄附していただいた。生活就労支援として、低所得者、食事に困っている方、こども食堂に配布するなど、有効に活用しており、大変ありがたい。

■ 評価報告書 基本方針Ⅳについて

【評価】 経営状況は非常に厳しく、今回の診療報酬改定を受けても、収支均衡は難しい状況である。現在取り組んでいるベッドコントロールセンターを活用した病床利用率の向上による収益の増加、抜本的な改革による費用の削減に取り組む必要があることを踏まえ、総合評価を「B」とした。

【委員からの質疑や意見等】

(委員)

循環器・心臓血管外科が充実しているが、他医療圏からも患者を受け入れているのか。

(事務局)

例えば、TAVI については、当センターが県内で初めて実施施設となったが、現在では、実施施設が増え、県内の各医療圏で対応している状況である。TAVI 以外の心疾患領域でも同様の傾向にあり、当センターは、いわき医療圏を中心に受け入れているのが現状である。

(委員)

材料費の増加に対して、現在取り組んでいるベッドコントロールセンターのように、材料費についても中央管理など組織的にコントロールする仕組みを検討しているか伺う。

(事務局)

材料費については、大きなロットで購入することでコストを引き下げる「共同購入」や「地域フォーミュラリー」という施策があり、他病院との使用品目や規格の標準化など課題もあるが、地域で連携できる取組みとして検討していきたい。

(委員)

病床利用率向上に向けたベッドコントロールセンターの検討状況と、従来の病床管理からの改善点を伺う。

(事務局)

診療情報管理士によるDPC制度上の視点などを取り入れたいと考えている。

そのため、現在、空床状況など病床管理に必要なデータを30分間隔で更新し、可視化させる仕組みを事務職員で構築している。

看護部と事務局が連携して、病床を有効活用する運用を目指している。

(委員)

出生数が減少する中で、不妊治療から出産まで一貫して支援できる体制を整備することは、患者サービスの向上や収益の増加につながるのではないかと。

(事務局)

不妊治療は、数年前から保険診療になっているが、必要な人員や設備、当センター医師の考え等を踏まえて検討する必要がある。

■ 評価報告書 基本方針Ⅴについて

[評価] 当委員会の運営は、活発な議論がなされており、外部有識者の意見を踏まえた病院運営ができていると評価する。経営形態の調査研究についても実施されていることを踏まえ、総合評価を「A」とした。

[委員からの質疑や意見等]

(委員)

独立行政法人化することの利点について、給与費の視点以外で何かあるか。

(事務局)

現行の地方公営企業法全部適用よりも弾力的な病院運営が可能になり、人員配置のほか設備投資に係る判断などを迅速に行うことができる利点があると考えている。

■ 評価報告書 全体総合評価

[評価] 令和7年度は大幅な赤字となり、先行きも非常に厳しい状況であるが、医療圏唯一の自治体病院として高度急性期・政策医療などの役割を担う責任があることから、経営基盤強化に向けた取組みを進めていただくことを期待する。

委員会の意見を踏まえて評価報告書を取りまとめ、後日、病院事業管理者へ報告することとし、最終的な文言・体裁は委員長に一任することについて、了承された。

⑤ 診療報酬改定 2026 への対応と今後の方向性について

事務局から、資料 3 「診療報酬改定 2026 への対応と今後の方向性について」に基づき、説明した。

[委員からの質疑や意見等]

(委員)

診療報酬改定・地域医療構想を見ると、急性期医療や高齢者救急など、機能分化という点が非常に問われている中で、各病院が何をやるか、自己申告型でやっても共倒れになる可能性があると考えるが、当医療圏の課題解決に向けて、当センターがリーダーシップを取っていくということか。

(事務局)

今後 2040 年までの人口減少を考慮すると、当医療圏に急性期拠点病院は 1 病院が適当だと考えている。その上で、当センターが急性期拠点病院になるべきと考えており、そういう意味では、我々がリーダーシップを取って、機能分化等の課題を解決していくという考えが必要である。

4 その他

事務局から、次回の委員会の協議予定内容及び開催予定時期について、報告した。

5 閉会